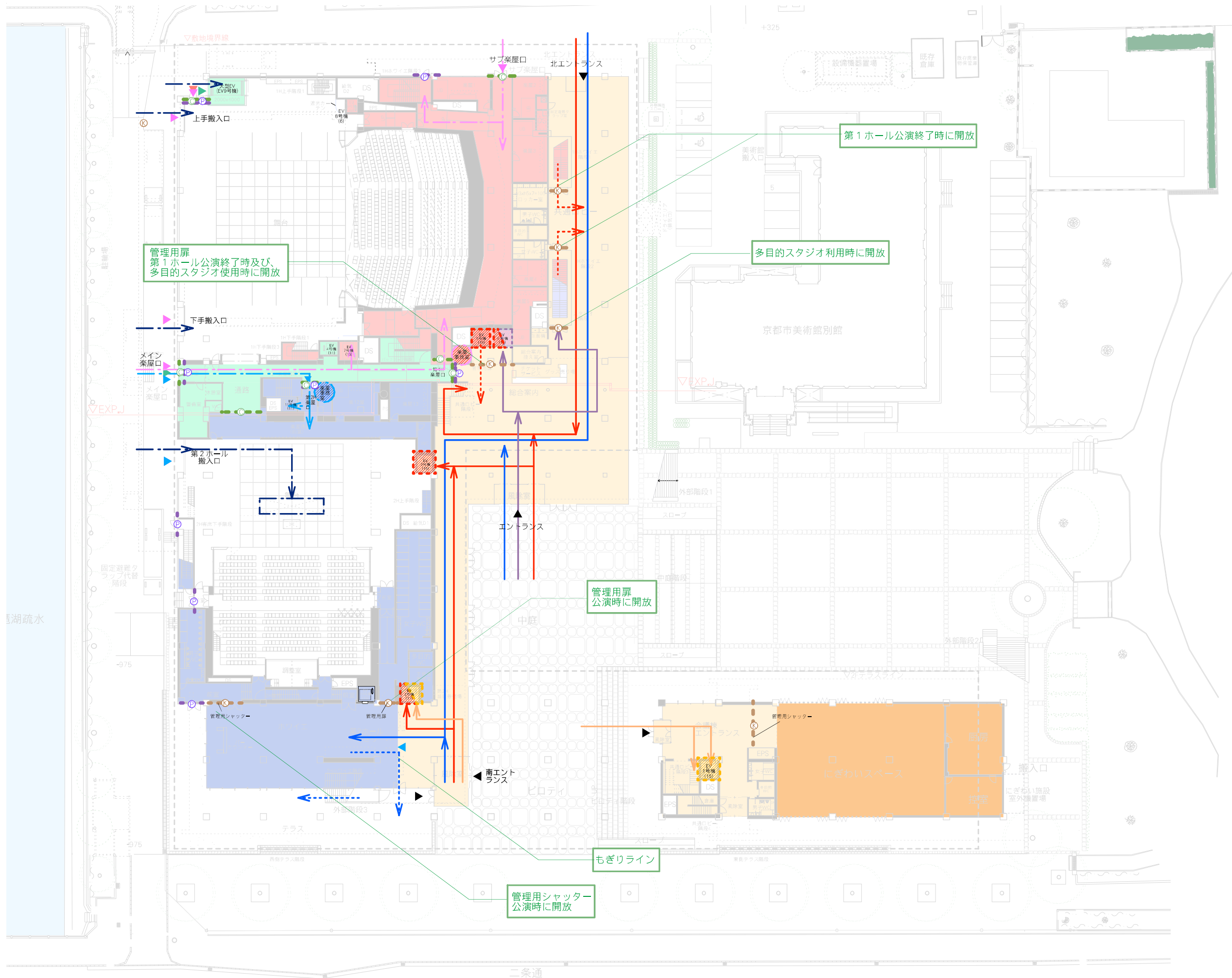
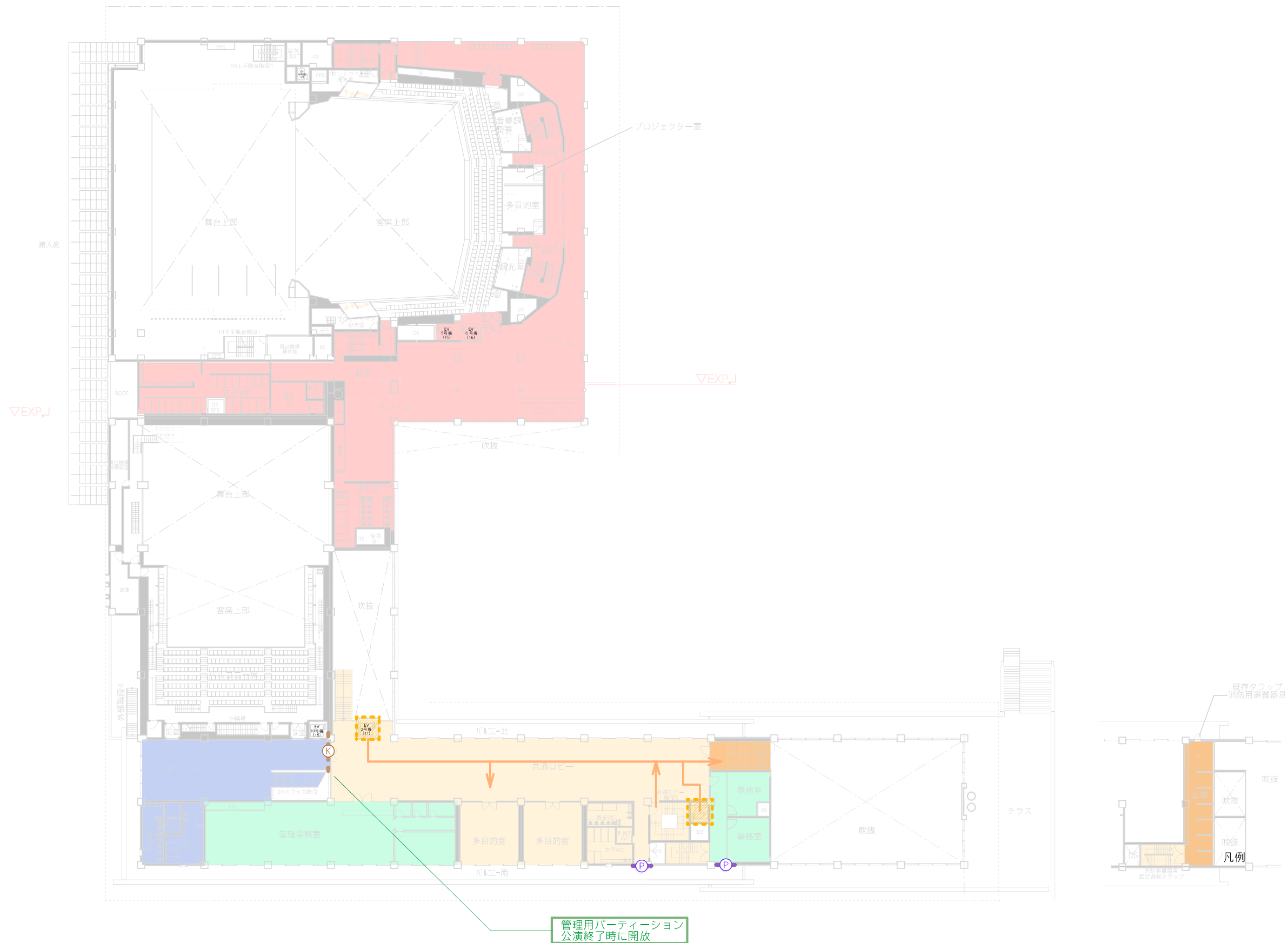
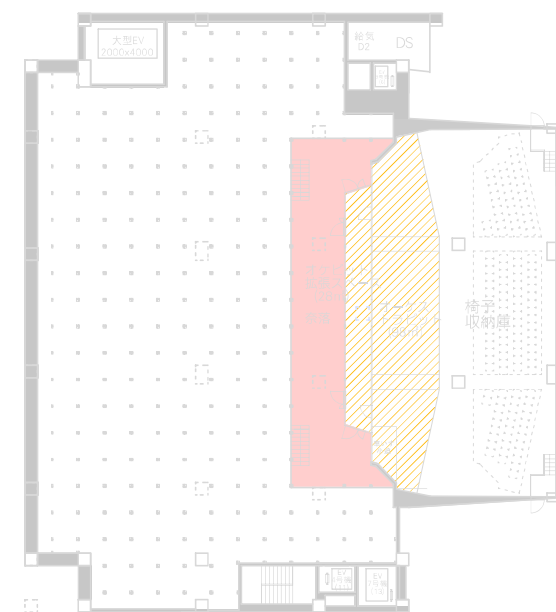
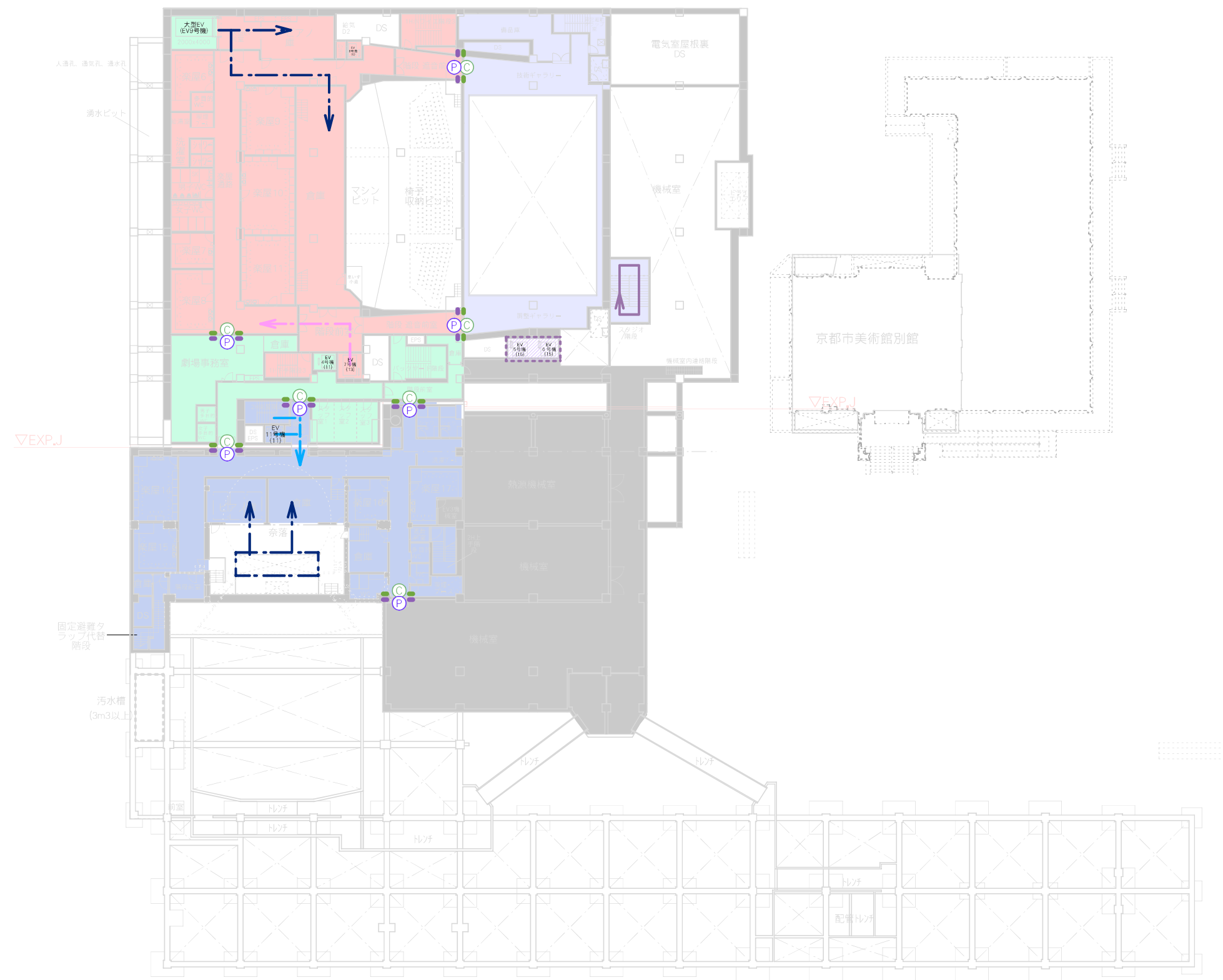


その他設計図

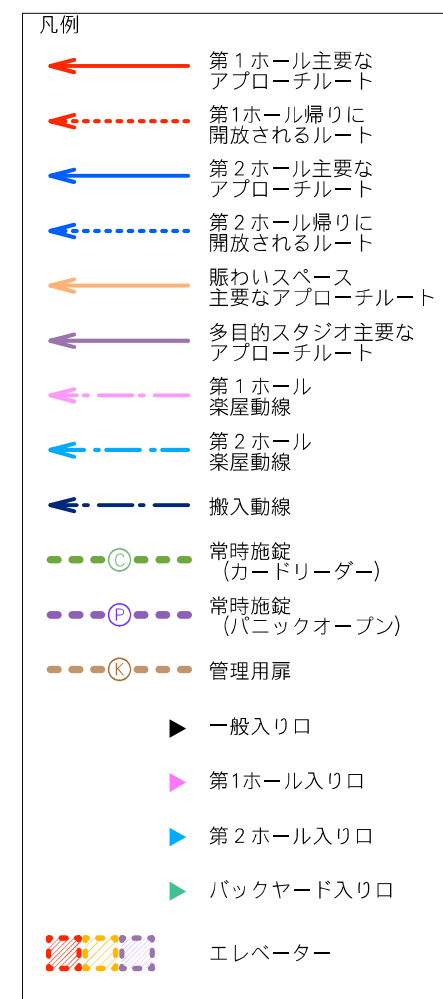


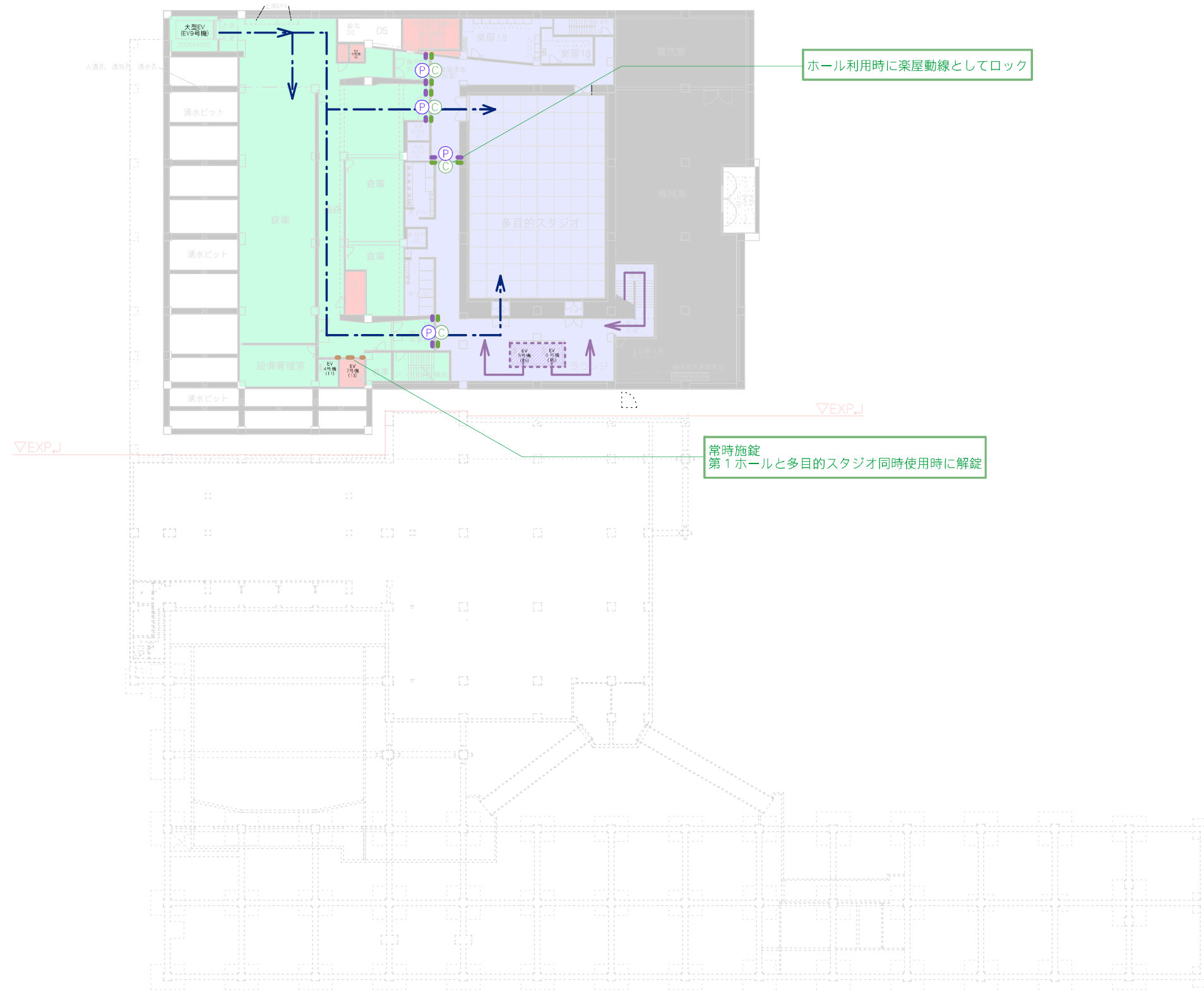
- 凡例
- 第1ホール主要なアプローチルート
 - 第1ホール帰りに開放されるルート
 - 第2ホール主要なアプローチルート
 - 第2ホール帰りに開放されるルート
 - 賑わいスペース主要なアプローチルート
 - 多目的スタジオ主要なアプローチルート
 - 第1ホール楽屋動線
 - 第2ホール楽屋動線
 - 搬入動線
 - 常時施錠 (カードリーダー)
 - 常時施錠 (パニックオープン)
 - 管理用扉
 - 一般入り口
 - 第1ホール入り口
 - 第2ホール入り口
 - バックヤード入り口
 - エレベーター





奈落レベル平面図 縮尺 1/500





- 凡例
- 第1ホール主要なアプローチルート
 - 第1ホール帰りに開放されるルート
 - 第2ホール主要なアプローチルート
 - 第2ホール帰りに開放されるルート
 - 賑わいスペース主要なアプローチルート
 - 多目的スタジオ主要なアプローチルート
 - 第1ホール楽屋動線
 - 第2ホール楽屋動線
 - 搬入動線
 - 常時施錠 (カードリーダー)
 - 常時施錠 (パニックオープン)
 - 管理用扉
 - 一般入り口
 - 第1ホール入り口
 - 第2ホール入り口
 - バックヤード入り口
 - エレベーター

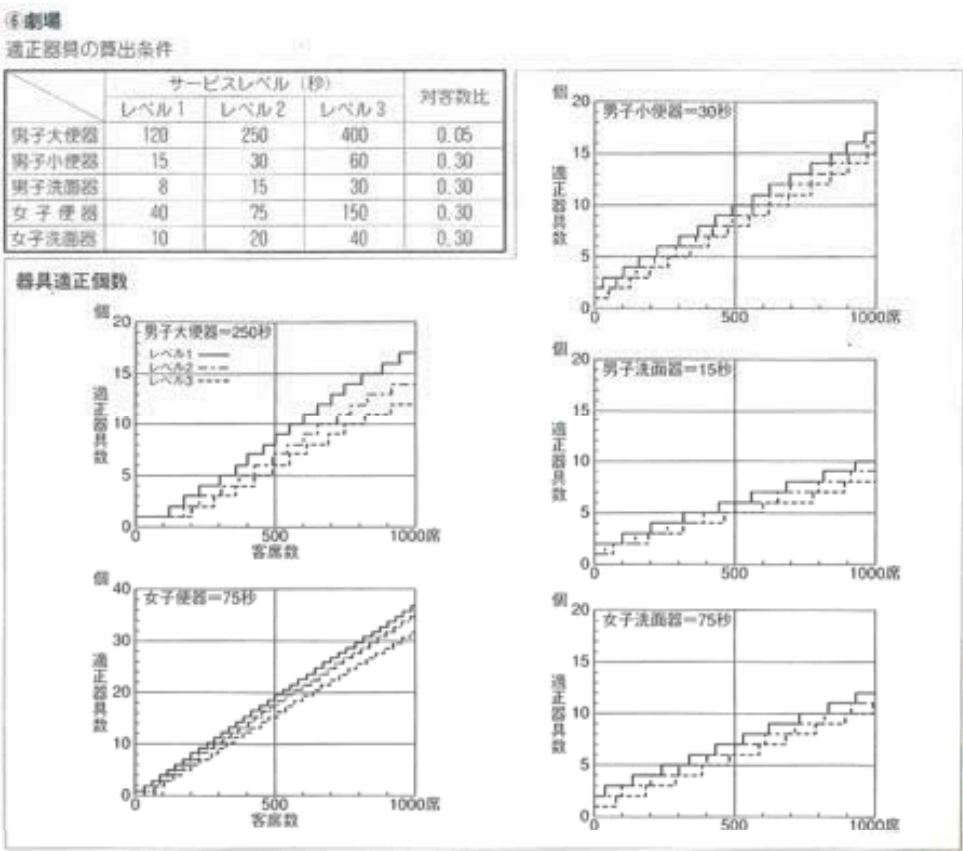
□ トイレ・衛生器具計画

衛生器具数の考え方

- ・ 大/小ホール客席数の男子/女子の割合は（男子：女子）＝（4:6）と想定する。
- ・ 洗面器個数は多目的トイレ1については各1として計算する。
- ・ 空気調和・衛生工学会による適正器具個数（昭和58年12月調査研究報告）を参照とする。
- ・ ホールの器具数のサービスレベルは「待ち時間の少ない（約80%の人が許容し得る待ち時間）良好な器具数」であるレベル1に設定。
- ・ 全ての多目的WCを， オストメイト対応とする。

バリアフリー整備の考え方

- ・ 京都市建築物等のバリアフリー促進に関する条例の一般基準，及び関係条例に対応する。
- ・ 複数の衛生器具を有するWCについては， 下記器具を設置する。
SUS手摺（大便器，小便器，洗面各1）
床注意喚起ブロック（小便器，洗面各1）



空気調和・衛生工学会による適正器具個数（昭和58年12月調査研究報告）

第1ホール

			B1階	1階	2階(1階席)	3階(2階席)	4階(3階席)	5階(4階席)	合計	空気調和・衛生工学会
	客席数				1107	260	350	284	2001	男子801人 /女子1200人
客用	男	小便器			15	15	6		36	≧14
		大便器			5	7	5		17	≧8
		洗面器			7	6	4		17	≧8
	女	大便器			33	21	22		76	≧44
		洗面器			14	14	12		40	≧12
	多目的				1	1	1		3	
楽屋	男	小便器	4						4	
		大便器	2						2	
		洗面器	3						3	
	女	大便器	5						5	
		洗面器	5						5	
	多目的		1						1	
	楽屋	洗面器	11						11	
	楽屋個室	UB		5					5	

第2ホール

			B1階	1階	2階(1階席)	合計	空気調和・衛生工学会
	客席数					715	男子286人 /女子429人
客用	男	小便器		15	7	22	≧4
		大便器		3	3	6	≧6
		洗面器		5	3	8	≧4
	女	大便器		24	8	32	≧18
		洗面器		8	4	12	≧7
	多目的			1	1	2	
楽屋	男	小便器	1			1	
		大便器	1			1	
		洗面器	1			1	
	女	大便器	2			2	
		洗面器	1			1	
	多目的		1			1	
	共通	大便器		1		1	
	楽屋	洗面器	7				
	楽屋個室	UB		2		2	

共通ロビー及びバックヤード

			B1階	1階	2階	3階	合計
客用	男	小便器		2	2	5	9
		大便器		1	1	2	4
		洗面器		2	2	3	7
	女	大便器		3	2	6	11
		洗面器		2	2	4	8
	多目的			1	1	1	3
管理エリア	共通	大便器		1			1
		洗面		1			1
	多目的		2(男女各1)				2(男女各1)

多目的スタジオ

			B2階	合計	空気調和・衛生工学会
	客席数			300	男子120人 /女子180人
客用	男	小便器	6	6	≧4
		大便器	3	3	≧2
		洗面器	4	4	≧3
	女	大便器	6	6	≧6
		洗面器	4	4	≧4
	多目的		1	1	
楽屋	男	小便器			
		大便器			
		洗面器			
	女	大便器			
		洗面器			
	多目的		2(男女各1)	2	
	楽屋	洗面器	3	3	

会議棟 にぎわい施設

			1階	2階	合計
客用	男	小便器	1	1	2
		大便器	1	1	2
		洗面器	1	1	2
	女	大便器	2	2	4
		洗面器	1	1	2
	多目的		1	1	2
管理エリア	共通				
	多目的				0

16-3 排水計画及び雨水利用・流出抑制計画

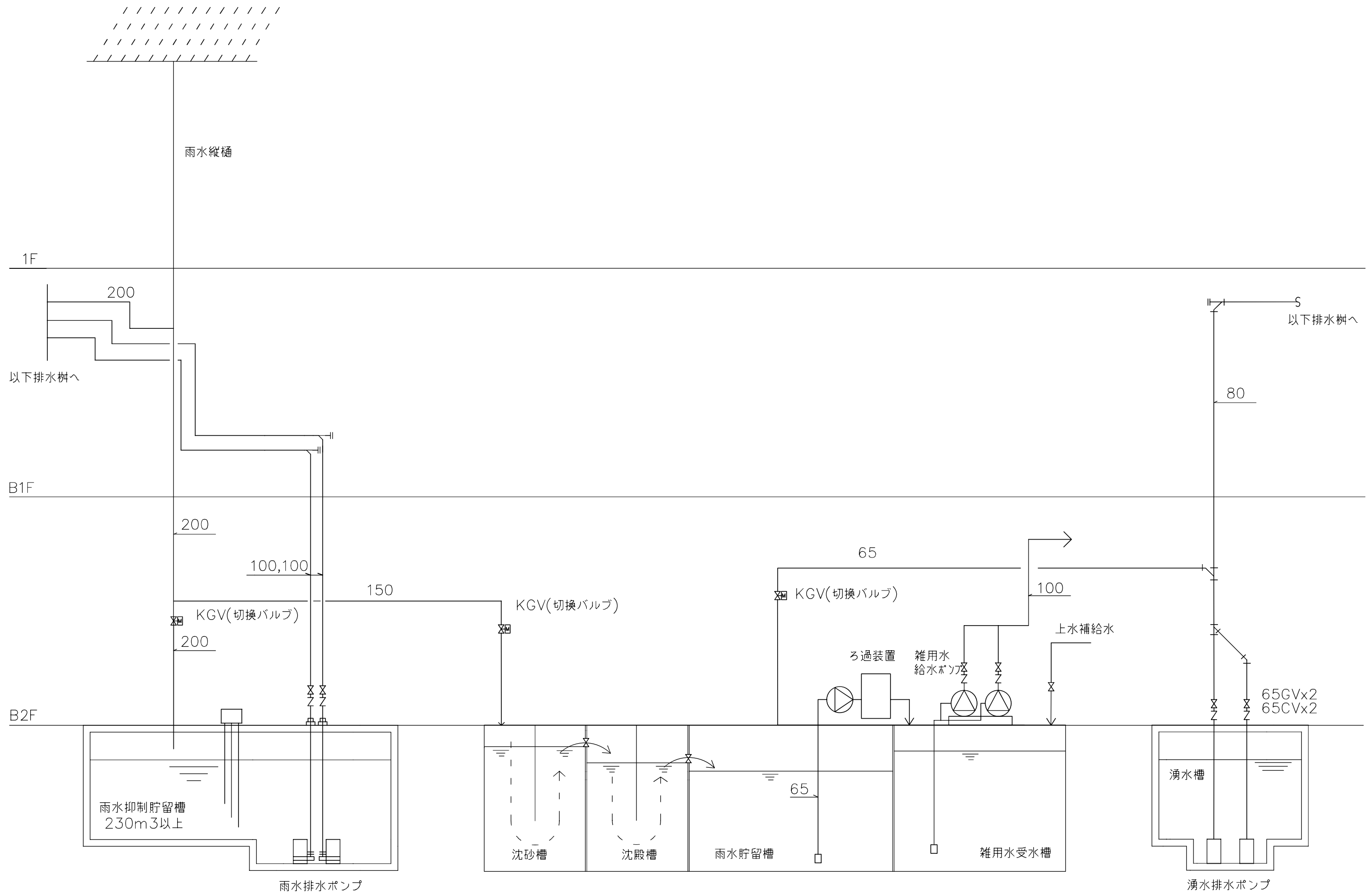
(1) 排水設備計画

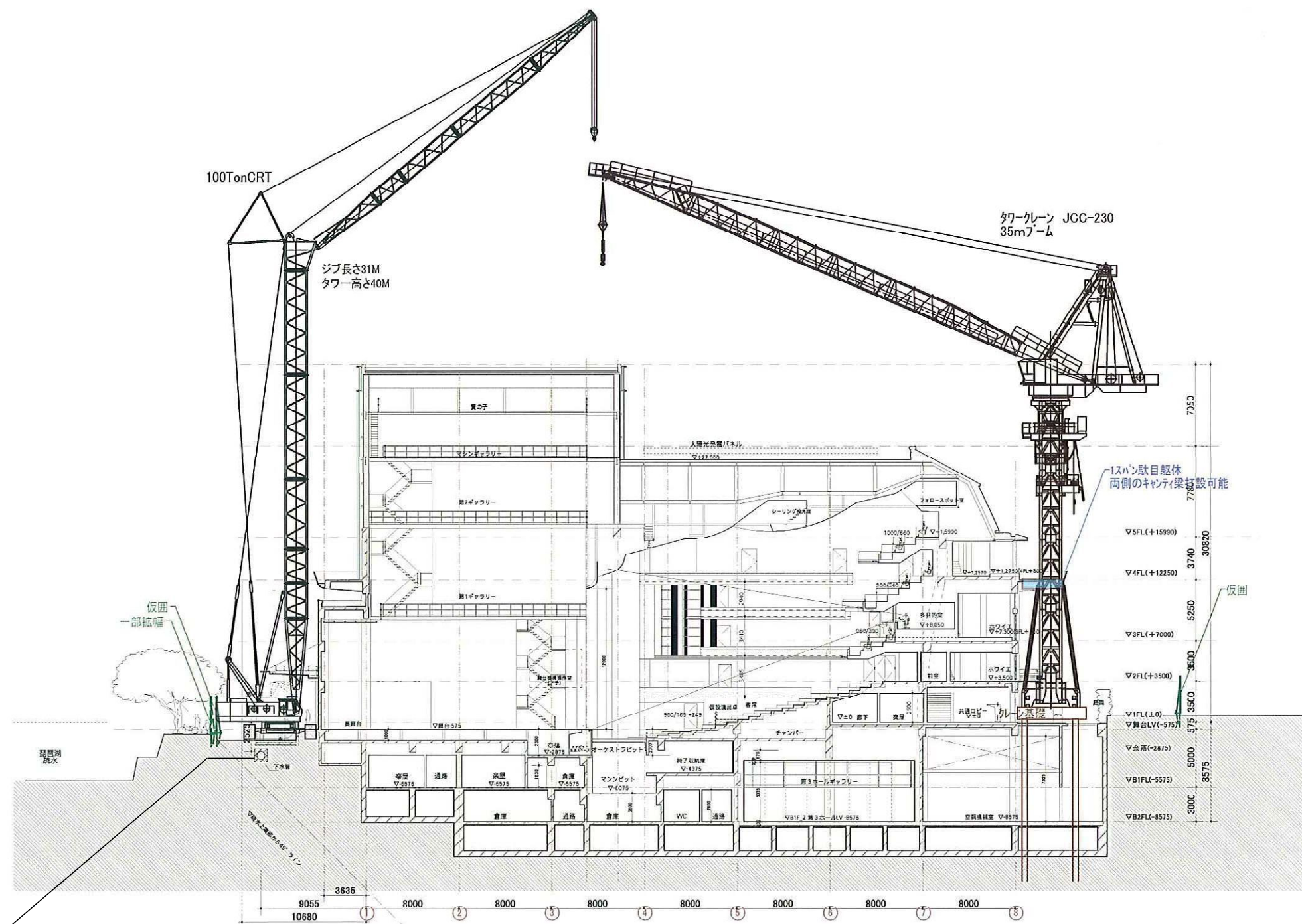
- ・ 屋内の汚水、雑排水は分流式とし、屋外第1楯で合流し既設下水管に放流する。
- ・ 厨房の排水はグリーストラップを介して公共下水管へ放流する。
- ・ 地下階の汚水・雑排水は汚水槽に貯留後、汚物ポンプにて屋外の排水楯へ放流する。
- ・ 地下階の湧水は湧水ポンプにて屋外の排水楯へ放流する。
- ・ 雨水抑制水槽の雨水は降雨の無い日に、雨水ポンプにて屋外の排水楯へ放流する。

(2) 雨水利用・流出抑制計画

1) 雨水利用

- ・ 雨水の集水エリアは第一ホールの屋根面とする。
- ・ 屋根 雨水を集水・貯留し、ろ過機で処理後 雑用水として利用する。
- ・ 貯留槽は、沈砂槽・沈殿槽を設け不純物を沈殿させ、ろ過・滅菌後雑用水受水槽へ補給する。
- ・ 初期雨水の水質は、降雨間隔及び季節、集水面の有機物(ゴミ等)の影響を受ける為、できる限り清浄な雨水を集水出来るよう電動弁の切替操作により、初期雨水を排除する。

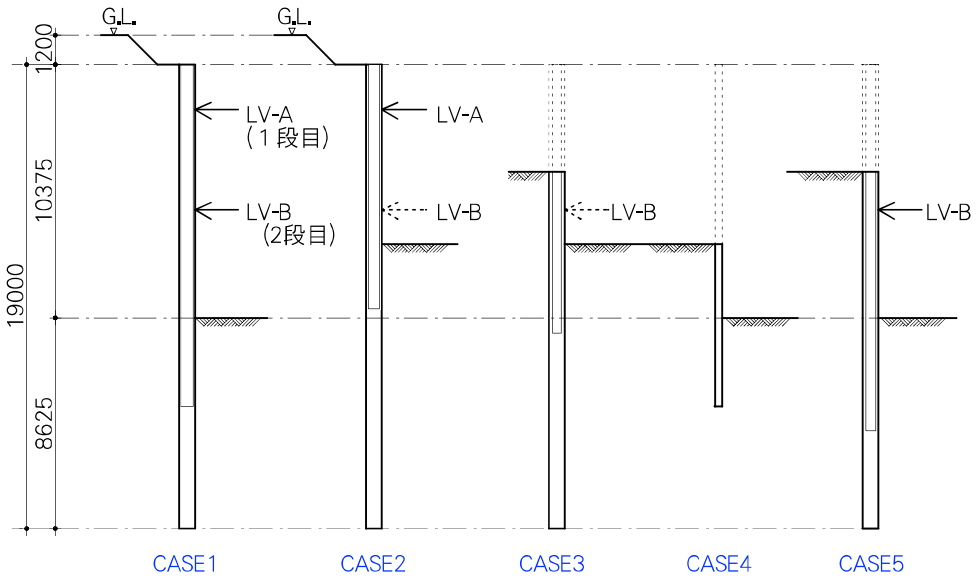




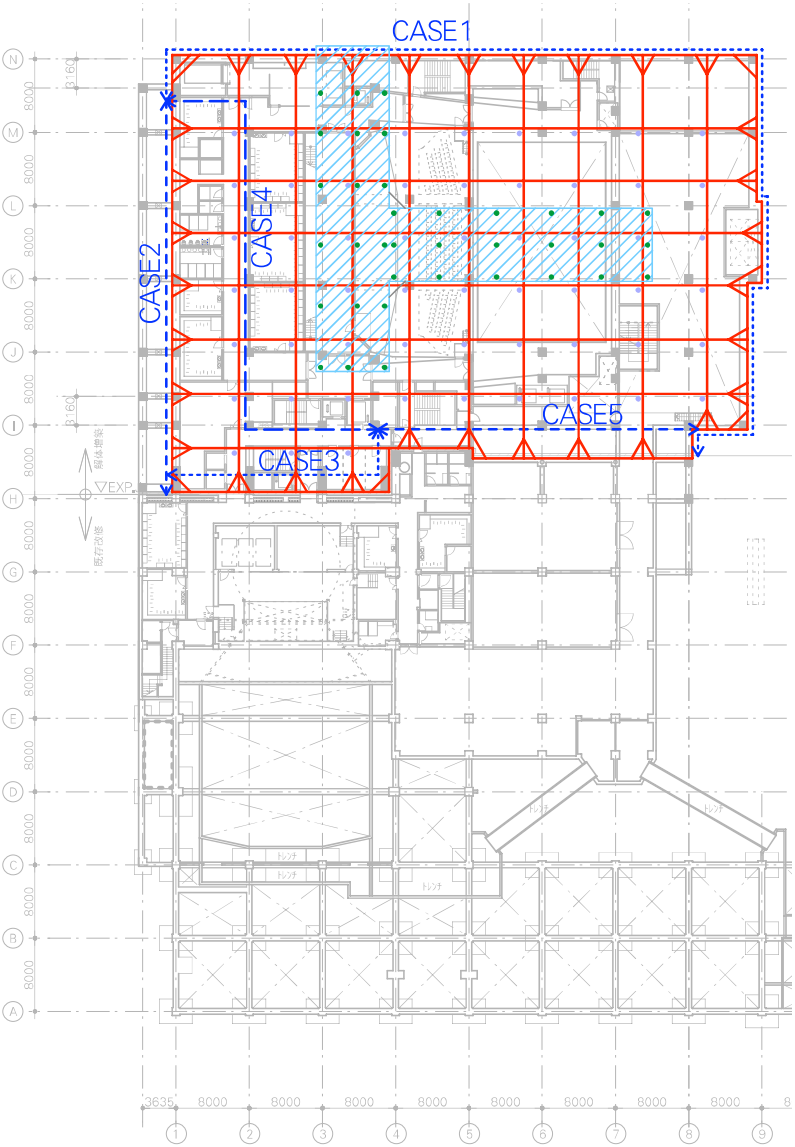
※揚重機の設置にあたっては、
既存雨水配水管を損傷しないよう、養生をおこなうこと。

主要揚重機計画 西:100TonCRT 東:タワークレーンJCC-230

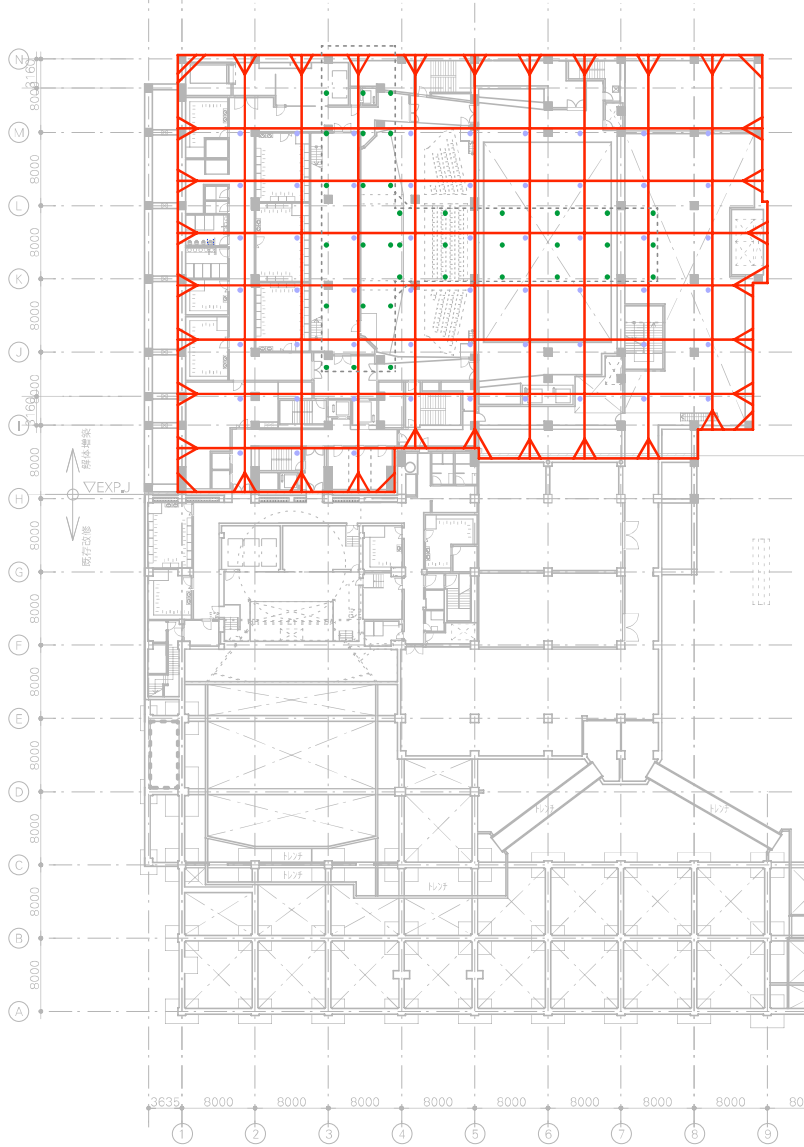
CASE	山留壁		支保工		
1	ソイル柱列壁 (GL-11,575)	H-500×200×10×16@0.90m L=14.0m ソイルφ650 Ls=19.0m	切梁工法 (2段)	1段目腹起し	H-400 (Y)
2	ソイル柱列壁 (GL-8,575)	H-450×200×8×13@0.90m L=10.0m ソイルφ650 Ls=19.0m	切梁工法 (1段)	1段目切梁	H-350 (Y)
3	ソイル柱列壁 (GL-5,775～-8,575)	H-350×150×6.5×9@0.90m L=11.0m ソイルφ650 Ls=19.0m	自立	2段目	H-400 (Y)
4	親杭横矢板 (GL-8,575～-11,575)	H-300×150×6.5×9@1.50m L=14.0m	自立	盛替梁腹起し	H-400 (Y)
5	ソイル柱列壁 (GL-5,775～-11,575)	H-400×200×8×13@0.90m L=15.0m ソイルφ650 Ls=19.0m	切梁工法 (1段)	盛替梁腹起し	H-350 (Y)



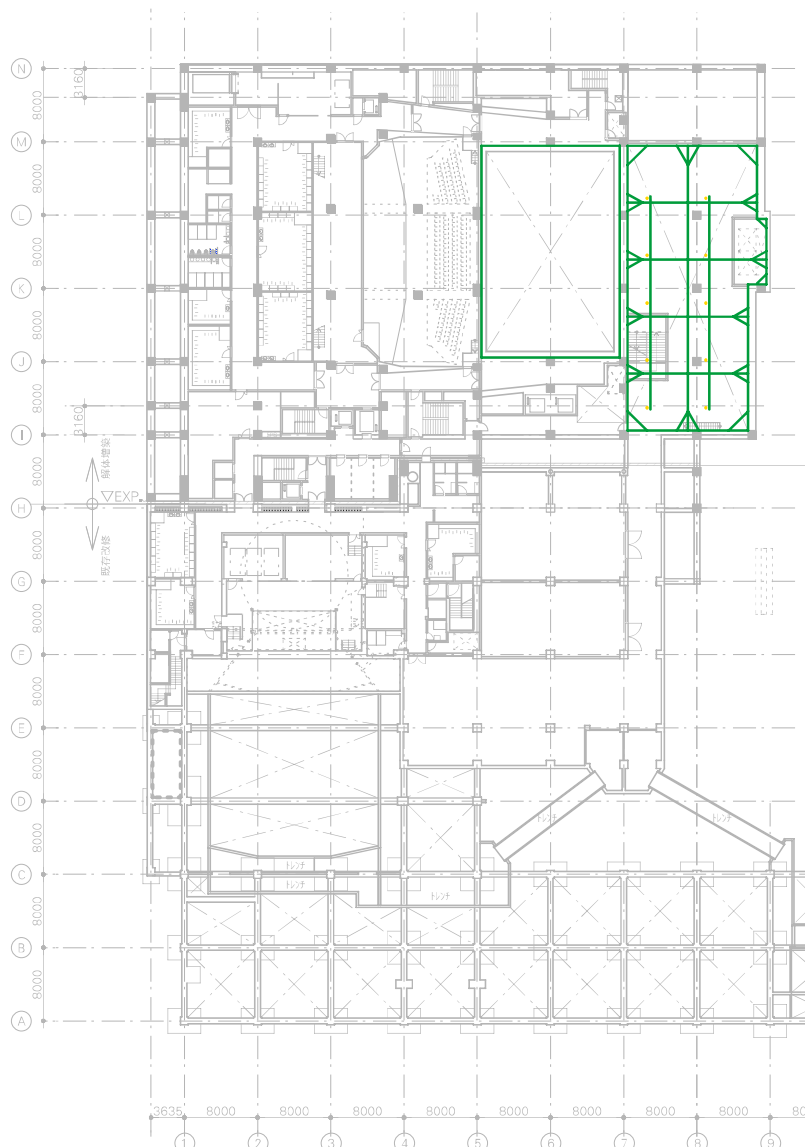
山留壁断面図



1段目/LV-A



2段目/LV-B



盛替梁

凡例

—

切梁

—

盛替梁

▨

構台

●

構台杭

●

支柱

山留壁